

所長の模型部屋（第2回）

皆様、いかがお過ごしですか。

残暑厳しい9月も終わり、涼しい日々が戻ってきましたね。私もこの夏は汗だくでプラモを作っていました。最近ピットロードさんやファインモールドさんから自衛隊車両が続々と製品化され、とても嬉しいのですが、製作するのが追いつかなくなってきました。もちろん、購入するための防衛費も厳しくなっております（泣）

さて、今回は予告しましたとおり

61式戦車です！



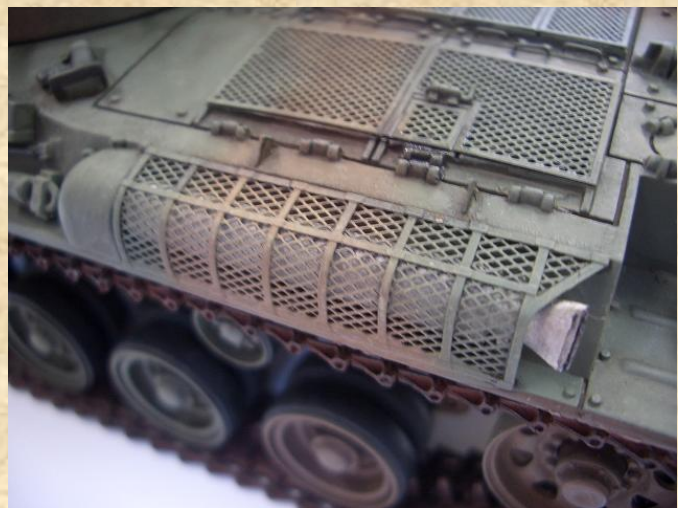
ディテールアップはオードナンスモデルのエッチングパーツとモデルカステンのキャタピラです。タミヤのキットの何倍もの値段がして高価になるのですが、キットでは省略されていたライトガードやエンジングリル内部、マフラー等がグッと引き締まりますよね。以前、このキットを作ったときライトガードをプラ版で作成し、苦勞した思い出があります・・・



フィギュアはタミヤの61戦車の車長と74式戦車の操縦手を改造しました。旧迷彩服は既に官給品では手元にはないので、自宅倉庫の中からかつて使用していた迷彩帽を参考に迷彩パターンを塗りました。個人的にはこちらの昭和っぽい迷彩柄が好きなのですが・・・

キットでは閉鎖されている装填手ハッチは開放としました。実際の訓練でもそうなのですが、戦車は死角が多く、周囲に隊員がいなから確認するための安全管理の観点から開放していることがほとんどです。また、エンジンの吸気を防塵の為にエアフィルター切り換えにより車内、すなわち砲塔のハッチから吸気するため、開放しています。(自衛隊の全ての戦車がそうです。)ですから車内吸気の状態ではハッチを閉めると真空状態になり大変なことになります。

対空12.7mm重機関銃はフラットブラックで塗装し、鉛筆の芯の粉を塗りつけて金属感を出しています。実銃も、防錆の為に、パーカーライジング加工を施され、つや消しブラックに仕上がっており、使用にすると従い加工が剥げて金属の地肌が出ます。したがって、このやり方が一番実物に近い感じになります。実銃は全面メタリックグレーではありませんよ。



マフラーはあえてホワイトメタル製の部品をそのまま使用しました。表面がそのまま参加すると焼けて崩れそうな実車塗装の感じが出るからです。マーキングは12戦車としました。OKUNO模型「M41自衛隊仕様」のデカールを使用しました。カルトグラフ社製ですので、密着度が違いますよね。

皆様ご承知の通り、第12戦車大隊は解散してしまっているのですが、大隊の一部の隊員達は、同じ機甲科職種第12偵察隊に配置されました。自衛隊の各部隊は訓練検閲の前に士気高揚の為に音楽隊により各部隊歌を演奏してもらうことがあるのですが、第12偵察隊の時は、「第12偵察隊歌」と「第12戦車大隊歌」を演奏します。演奏後、大隊出身隊員達からは拍手が起こります。彼らにとってそれだけ愛着のあった部隊といえるでしょう。

そんな場面を見て、今回は第12戦車仕様になりました。



塗装はタミヤの自衛隊色を使用しました。自衛隊の色は直ぐに退色してしまい、色の表現が難しいですよ。キャタピラは、つや消し黒を重ね拭きした後に、レッドブラウンでウォッシングし、フラットアルミとクロームシルバー、鉛筆の芯でドライブラシしました。泥はベビーパウダーにアクリル塗料を混ぜたものや、ウェザリングスティックを使用しました。後日、ジオラマに使用したいので、あえて過度な汚しは控えています。アンテナは0.3mm真鍮線を使用しました。

私は61戦車で一度だけ戦車射撃をしたことがあり、隣の戦車が射撃するのを装填手ハッチから顔を出していたのですが、マズルブレーキが横向きの為か射撃の衝撃波が横にもの凄かったのを覚えています。他の戦車ではこんな衝撃波が横に来たことはありません。

さて、次の作品は・・・

78式戦車回収車

です。



また自己満足の世界にお付き合い下さいね・・・